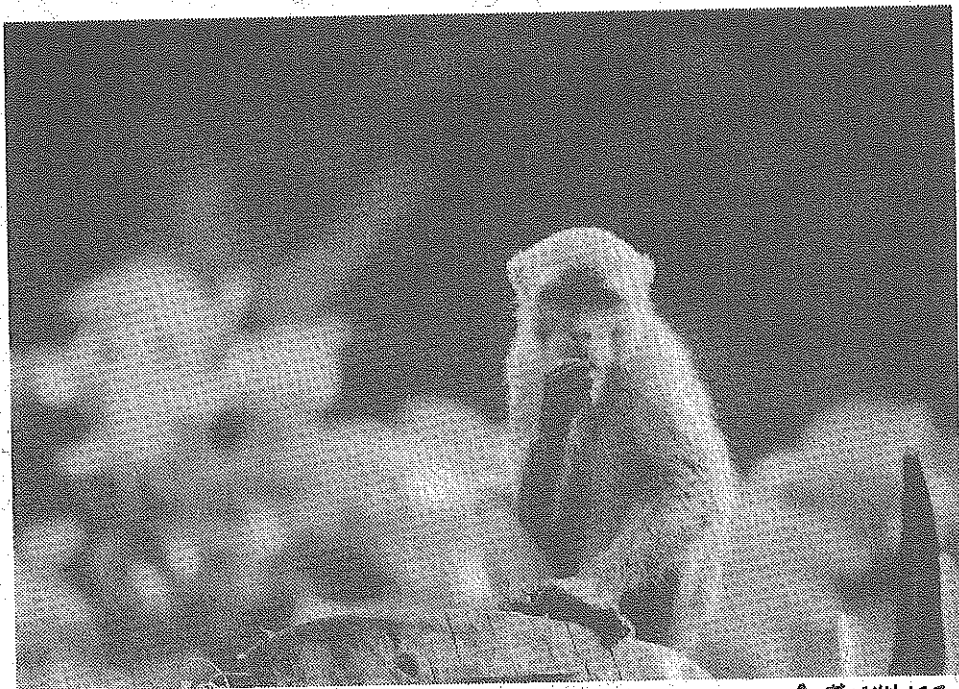


Save The Tropical Forests



森の通信

2010.7.6



▲ サバ州にて

CONTENTS

- people ⑬ ユン・ウルニアウン氏 …… 3P
- 「カリマンタンに家族ができた!？」 中村彩乃 …… 4P
- 「持続可能なスコニョル川」グループ …… 8P
- 「村人へのインタビュー」 西晴香 …… 11P
- 世界の森林ニュース …… 15P
- 新聞記事 …… 17P

＝ユドヨノ大統領の2年間伐採の一時停止に期待する！！＝

国際熱帯木材機関 (ITTO) は、2006年5月に「世界に残る熱帯林の95%が今も危機的な状態で、持続可能な熱帯林の森林経営はドイツの面積ほどしかなく世界の5%しかない。FAO(世界農業機関)は「2000-2010年にかけて熱帯林の減少はやや減ると。だが各国は、森林法の遵守・違法伐採や違法貿易の停止が不可欠である」と報告している。森林認証も各機関で異なり問題が多い。サラワク州では原生林破壊するSamling Timber社の伐採がひどく、同社はそのあたりの森林についてMTCC[マレーシア木材認証機関]を受けているという。Rinbnan Hijau社はパプア・ニューギニアで違法伐採・原生林破壊を続けている。以前の日本企業より酷い。

マレーシア・特にサラワク州政府の森林保全の対応はおかしい。余りにも州政府のトップが居座り続け、原生林の保全を行わない。例えば同政府は、ITTOにインドネシアとの国境にあるランジャク・エンチマウ(Lanjak Entimau)自然保護区とインドネシア側のベツン・ケリファン国立公園沿いの森林保護する案を出した。トランス・バウンダリー・コンサベーション(国境沿い保護区)拡大策として提示し、生物多様性条約第7回締約国会議COP7・クアラルンプール宣言でも山岳地保護をPRした。ところがどうだ。ラジャン川上流のカピットの奥地からインドネシア側のベツン・ケリファン国立公園沿いの森林は多数の伐採道路が出来ており、インドネシアのNGOのYayasan Titianは、違法材貿易がこのあたりでされているので、調査すると連絡してきた。

サラワクに比べインドネシアのユドヨノ大統領は、2010年5月27日、ノルウェーで「森林について2年間の伐採モラトリアム(一時停止)を表明した。指導者がGreenPeaceの人たちとも意見を交換し、本気で森林保全に取り組むと態度を明らかにしたのだ。ガボンも丸太輸出停止で、カメルーンもその動きだ。ブラジルの政策も変わりつつある今、マレーシアは国際社会に見放されぬよう努力すべきだ。サラワク州木材企業が跋扈するガイアナやパプアも。

(N)



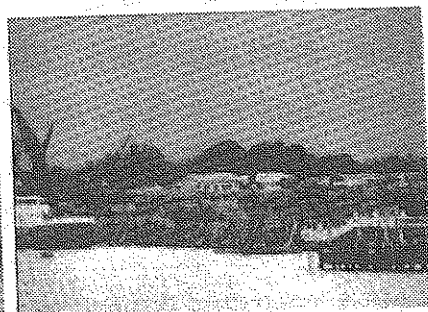
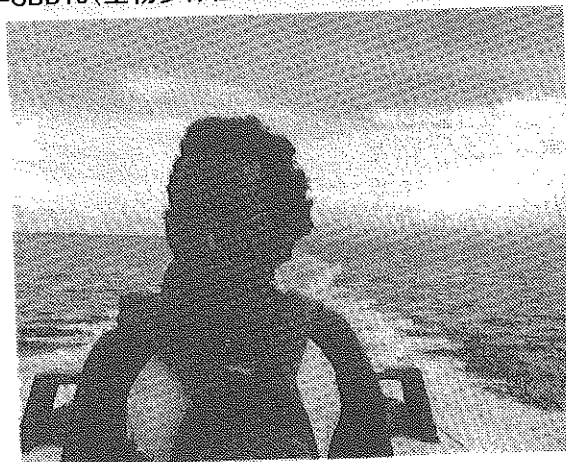
(サラワク州カピット上流の伐採道路 インドネシア国境ベツン・ケリファン公園隣接地伐採)

【ウータン活動報告】

- 2010・3・23 『激減! ボルネオ島の密輸材取引』冊子の完成、
- 4・13 通信『ウータン96号』発送、CBD名古屋の参加等検討、同大阪バレード最終報告へ
- 4・24 「サラワク先住民と森林破壊」講演会・ジョク・ジャウ・イボン氏からのメッセージ
- 5・11 ウータン事務局会、CBD名古屋へ招聘者をリストアップ
- 5・22 CBD名古屋へむけ、生物多様性保全への大阪バレード。CBD名古屋説明会参加。

People **16** save! the World's Forests

Mr. Kalimantan (カリマンタン)調査と呼ばれるYuyun Kurniawan (ユウン・クルニアワン)氏
—CBD10(生物多様性条約締約国第10回会議)名古屋へ来日予定のYayasan Titian事務局長



左(東カリマンタン・ヌヌカン島周辺の違法伐採調査のユウン氏) photo by Nishioka

右(サラワク州セマタンSematanのHarwood社はインドネシア材を2009-2010年に輸入出来ず、
Harwood社同事務所は閉鎖となる)写真/2005年 by Titian

Yayasan Titianはインドネシア西カリマンタンの州都ボンティアナックに事務所がある団体だ。ユウン氏はボゴールのTelapak等と交流が深く、カリマンタンの各地の違法伐採・違法貿易の情報には特に詳しく、他のNGOsからMr. Kalimantan調査と呼ばれる事務局長。ウータンは西カリマンタンとサラワク州の違法材貿易調査を依頼、西カリマンタンからサラワク州へ最大の時期2004年には250万m³(立方メートル)も密輸され、最大の密輸ルートがこのセマタンだ。2001年、2004年、2007年とウータンで調査したが、サラワク州警察等に守られ、夜間か早朝に運ばれていた。Titian等の申入れで、西カリマンタン州政府、インドネシア警察も動き出し、次々と密輸を2007年から摘発。そして2009年8月から2010年5月まで密輸材が運べなくなった。このルートでサラワクへ密輸材は0m³!他のルートも9割強の激減だ。「Nishioka san, No timber in Sematan! This office close now.」とユウン氏からのメール。シャイな若者からの返事だ。州政府直轄Harwood事務所もインドネシア木材が全く無しで、事務所閉鎖とは驚き。だから5月27日、ユドヨノ大統領も2年間の森林伐採のモラトリアム(一時停止)宣言が出来るのだ。

(西岡)

カリマンタンに 家族ができた！？

中村 彩乃

● すべては夢からはじまった！

ある夜、わたしは夢をみた。夢の中で、わたしはインドネシアの西カリマンタン州、ポンティ村の、いつもお世話になる友人宅の台所にいた。そこには、上半身裸のおじさんが座っていた。おじさんはわたしの友人の夫で、口数が少なく、わたしともあまりしゃべったことはなかったが、困った時には力になってくれる頼れる存在であった。おじさんは、腕にオイルか何かを塗りながら、腕が痛くて仕方がないとおつぶやいていた。

その夢から1ヶ月後、私はインドネシアへ向かうために関西空港にいた。めずらしく早く空港に着いた私は、空港内を目的もなく歩き回っていた。すると、目の前に薬局が現れた。それと同時に、急にあのおじさんの夢のことを思い出した。日本の飲み薬をお土産として持っていてもインドネシアで評判が悪いけど（効かないらしい）、塗り薬は受けがいい。本当に腕が痛いのかどうか



▲ プランテーションで休憩するポンティ村の人々

分からないが、おじさんに薬を買っていくことにした。

● 西カリマンタン再訪、そして衝撃の事実！！

西カリマンタン州の州都であるポンティアナックに到着するとすぐに、環境問題を扱う NGO である WALHI の事務所を訪ねた。事務所には、役人の汚職撲滅のためのデモに参加するため、ポンティの隣り村から二人の農民が来ていた。彼らも、わたしの友人も、ボルネオの先住民であるタヤックであり、油やしのプランテーションで働いている。わたしたちは、再会を喜び合い、さっそくわたしが日本から持参した日本酒で乾杯しようという話になった。飲みながら、わたしは日本で見たあの夢の話をした。すると、急に彼

らの顔色が変わった。そして言った。

「あのおじさんは、ちょうど1ヶ月前に亡くなったよ」

死因は脳卒中で、最後の言葉は、腕の感覚がなくなっていたのか、「腕がない」であったという。

● 友人との再会、おじさんとの再会…

いつもは、楽しみで仕方がないボンティ村への道を、少し憂鬱に感じながらバイクで走っていた。どんな顔で友人に会えはいいのだろうか。お悔やみの言葉ってインドネシア語でなんと会えはいいのだろうか。答えがでないまま、バイクは油やしのフラクションの中の集落にある友人宅の前で止まった。いつもは、家から飛び出てきて歓迎してくれる友人の姿はない。家の中に入ると、親戚や近所の人に支えられてなんとか座ることができている友人の姿があった。ずっと泣いていたのか、目が赤くなって腫れていた。月並みの挨拶をして、何を話しているのか分からず黙っていると、友人は夫が突然「腕がない」と言って倒れた夜の話をしてくれた。倒れた後、すぐにボンティアナックの病院に運ん

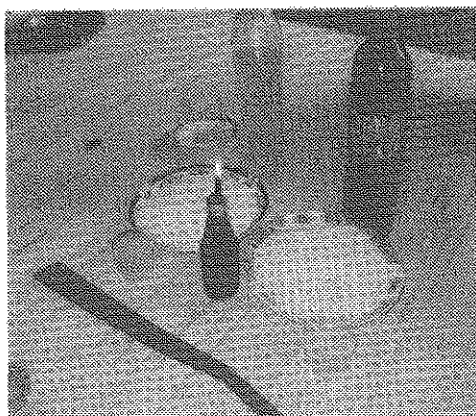
だが、意識が戻ることはなかったという。わたしも、夢の話をし、持参した塗り薬を渡した。友人や親戚の人たちは、その薬を食い入るように見ている。そして、薬をお墓に供えることになった。お墓は、集落の中にあり、自宅から2、3分で到着した。友人は、チューブから薬を出すと、大きな十字架が置かれた盛り上がった土の上に落としはじめた。そして、どういう経緯でその薬がここに持ってこられたかお墓に向かって話しはじめた。話が終わると、残った薬を持って自宅に戻った。それから、おじさんがなぜ遠い外国に住むわたしの所に現れたのかを、みんなが議論しはじめた。彼らにとって、夢は大事なメッセージを含んでいるという。そして、議論の結果、わたしは友人の家族にとって、とても重要な人だという嬉しいような、少し怖いような結論に達したのであった。

● 家族の契いを交わす儀式へ！

翌日、夜おそくまで近所の人たちと地酒であるトアックを飲んでいたら、早く起きることができなかった。起きた時には、家族や近所の人たちが集まっていて、慌しい様

子であった。聞くと、昨晚、集落の何人かの人、わたしと友人は家族の契いを交わした方がいいという夢の暗示を受けたため、そのための儀式を執り行うと言うのだ。わたしは、すぐに断った。おぼけの話が苦手なわたしは、何かその手の話と共通した気持ちの悪さを感じたからだ。だが、わたしの意見は全く通る気配はなく、次々と親戚が集まりだした。家の裏では、儀式の参列者用のにわとりがつぶされ、毛がむしられていた。儀式で使うにわとりは、生きたまま足を紐で結ばれていた。客間に親戚が車座に座り、その中心には、更に盛りだされた米や地酒のトアック、ろうそくや古い刀が置かれた。もう、ここまで来たら引き返せない。わたしは、思い切って儀式に参加する決心をした。

わたしと友人は、米やトアックの前に座るように促された。司祭が



▲儀式のために用意された米、トアック、大刀

生きたにわとりを手に取り、わたしたちの背後でにわとりを左右に大きく振りながら、マントラを唱えていた。これは、彼らが信仰しているキリスト教の儀式ではなく、ダヤックの慣習に基づく儀式であるという。長いマントラが終わると、司祭は、さびの付いた大きな刀を噛んだ。次に、わたしの友人がそれを噛み、最後にわたしが噛んで儀式は終わった。式が終わると、トアックとつぶしたばかりの鶏肉が入ったおかゆが参列者に振る舞われた。そして、この儀式の話は、即座にポンティアックの NGO 関係者にも伝わり、多くの人たちからお祝いのメールが届いた。このことは、なんだかとてもめでたいことのようにであった。

● 新しい家族！？

今回の家族の契いは、血縁関係に基づかない穏やかな家族関係で



▲司祭が生きたニワトリを左右に振りながら、マントラを唱える。

あるが、これらの背景には、まだ記憶に新しいタヤックとマドゥーラの民族対立や、タヤックの中でもエスニックグループによる経済格差といった彼らが直面している問題があるのではないだろうか。様々な対立の中で、誰が味方であって味方がないのか明らかにすることが、彼らにとって重要であるのかもしれない。しかし、それにしてもおじさんはなぜわたしを選んだのか、新しい家族と共に、この問いを探っていこうと思う。



▲台所で儀式の後に食べるおかつを作る。



▲参列者のために鶏肉を分ける。



▲儀式が終わり記念撮影!
無事

「持続可能なスコンヨール川」グループ タンジュンパティン国立公園から

石崎雄一郎、西晴香、市川美穂

*村人から植林用の苗を購入 ～村人と交渉～ (市川)

バスキ。

みなさんは、彼のことを覚えているだろうか？

ウータン森の通信 93 号(2009.10.13)および 94 号(2009.12.30)でも紹介された、カリマ
ンタン中部にあるタンジュンパティン国立公園(以下国立公園)で活動している、フレ
ンドオブナショナルパーク(以下 FNPF)のスタッフの 1 人だ。

私が初めてバスキに会ったのは、昨年 11 月にバスキたちが来日した時。

バスキの話に感動し、バスキのところへ行ってみたいと思っていた。

今回、西岡さんたちウータンメンバーのおかげで、石崎、西、市川の私たち 3 人は、
2010 年 3 月、バスキのところへ会いに行くことができた。

今回の私たちのミッションの 1 つに、ウォーターポンプまたはホース(予算 4 百万ルピア
(=4 万円))をバスキの所属する FNPF へプレゼントすることがあった。

昨年、FNPF へプレゼントしたウォーターポンプが森林火災を消すのに役立ったから
だ。

現地に着いて、早速このことをバスキに話す私たち。

バスキは私たちの申し出を重く受け止め、FNPF のスタッフたちとお金の使い道につ
いて相談し始めた。

結局、バスキたちからの提案は、「村から苗を買ってくれないか？その苗を君たちのた
めに私たちが植えるよ。これは、森にとっても村にとってもいいことだ。」というものであ
った。

次の日の夜、バスキは早速、国立公園のすぐ近くに位置するタンジュンハラパン村の
苗づくりグループ「SEKONYER LESTARI(持続可能なスコンヨール川)」のメンバー全
員を集めてくれた。

このグループは、1 年前
に村の有志 20 人で結成
されたグループで、現在
37,000 株の苗を保有して
いる。このグループがつく
った苗は、国立公園、
FNPF や Yayorin などの



集まったメンバー ずら～り！

NGO、アメリカ人観光客によって買われていた。

ずらっと輪になった男たちを前にして、バスキは口を開いた。

「日本からの友人が、私たちを応援したいと言ってくれている。FNPFもお金が必要だが、もっと重要なものがある。」

バスキは、一通りのことを説明した後、ミホはマレー語ができるから(注:マレー語とインドネシア語はほぼ同じ)と、その場の進行を退いた。

ひえー！私は、大勢を目の前にして緊張していた。

実は、事前にバスキに苗の相場を聞いても、「苗の値段は売る相手によっても異なるし、ミホたちが村人と交渉するのだよ。僕は場をセッティングするだけだから。」と言われていたからだ。

私は、苗を買いたいこと、買った苗は FNPF のスタッフと一緒に植林し、維持管理して欲しいことを必死で伝えた。

すると、グループのリーダーであるトフイーから、「以前、7百万ルピア(=7万円)で1ha分の植林をしたことがある。今回も同じく1ha分の植林をしたいと思う。植林をしたところについては、3年間管理する。」と。

7百万ルピアで1haなら、4百万ルピアでは0.6ha ちゃうの？安すぎひんか？と、頭の中をよぎる。

トフイーは、「あなたたちは遠い日本からわざわざ来てくれた。それに、1年前にもポンプを買ってくれた。4百万ルピアは、私たちにとっては高価なお金であり、とても感謝する。これはメンバーの総意だ。」と続けた。

交渉成立。

私たちは、トフイーたちの提案通り、2006年に森が燃えてしまった国立公園内のブグロ地区に1ha分の植林をしてもらうことになった。

彼らの森を壊した原因の1つは私たちにもある。

謙虚に森を守り、私たちを温かく迎え入れてくれた彼らを前にして、私はとても切ない気持ちになった。

「私たちが、ここの森を壊した。ここ



交渉中・・・

で切られた木は私たち日本人が使っている。だから、私たちがあなたたちの活動を支援することは当たり前のことだ。」と、正直に話す。

「じゃあ、もっと買って！」と輪の中から声上がり、一同笑いにつつまれた。

交渉成立後、3人の父親である32歳のトフイーは言う。

「5年前、バスキに出会うまでは、森のことを考えたことなんてなかった。しかし、1年前に30百万ルピア(30万円)の支援を政府から得られるとわかった時、すぐにバスキのように苗づくりを始めようと思った。みなも賛成してくれて、自分がグループのリーダーに選ばれた。苗づくりを始めたばかりの時は、不安だったけど、今は楽しみながらやっているよ。」

さらに、嬉しいニュースが舞い込んできた。

つい1週間前、村の10~20代の若者を中心として、新たに苗づくりグループが結成された。

そのグループのリーダーは、FNPFのスタッフでもあるトウヤンが務める。

「若者たちは自発的にグループをつくった。私たち年配者は、若者たちにとっていい成長の機会だと思っているよ。」

後で、バスキが私たちに語ってくれた。

「将来、この2つのグループが苗づくりだけでなく、様々な事業を政府へ提案し、発展していくことを期待している。」

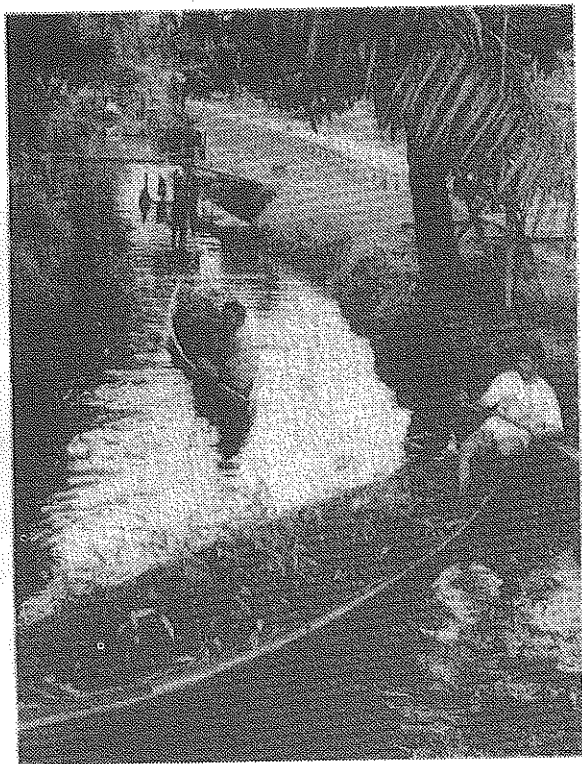
私は、バスキの思いがタンジュンハラバン村の人たちに伝わり、5年間の彼の努力が少しずつカタチになってきていることを実感した。

私もこの2つのグループを応援していきたいと思う。

将来が楽しみだ★



楡林予定のブゲル地区



楡林用の苗を運ぶメンバー

私たちが今回おじゃましたタンジュン・ハラパン村には、森林破壊により住む場所を追われた様々な部族の人たちが集まって生活をしている。風習や生活習慣、宗教など、異なる価値観をもつ人々が集まるこの村に、植林という概念はどう受けとめられているのだろうか。また植林という作業を通して、村人に変化はあったのだろうか。

ようやく植林グループとの交渉が成立し、すこしほっとした私たち3人は、苗グループのメンバーに色々と質問をなげかけてみた。

【質問内容】

- ①植林をどう思いますか？
- ②主な収入源は？
- ③タンジュン・ハラパン村にずっと住み続けたいですか？
- ④何が一番ほしいですか？

※回答者は植林グループのメンバーで、全員男性。一対一のインタビュー形式。

インタビュアー：西、通訳：バスキ

1人目：ハビさん

- ① とてもいい考え。大変だがやりがいのある仕事で誇らしく思う
- ② 農業、植林グループ、ボートづくりや家を建てる大工仕事
- ③ 村の生活は幸せで、一生ここにいたい
- ④ 住民みなにとってより平和で楽しい生活



バamil ユスラ ハビ

2人目：ユスラさん

- ① 森の再生に貢献するので大賛成
- ② 植林グループ、村の事務仕事、時々農作業もする
- ③ はい。村の生活はとても幸せ
- ④ 村人みんなのよりよい生活



マルサツ モリアディー

3人目：バamilさん

- ① 植林は森の土壌を豊かにするので大賛成

- ② 農業（主に野菜や米）、植林グループ
- ③ とても幸せ。ここに住み続けたい
- ④ お金持ちになりたい

4人目：モリアディーさん

- ① とてもいい考え。苗を育てるという過程そのものから学ぶことがたくさんある
- ② 大工仕事、手工芸品、時々農作業もする
- ③ （笑顔で）はい
- ④ お金持ちになって村人がほしがるものをすべて買いたい



通訳のバスキ（写真向かって左）

5人目：マルサッさん

— 村で一番農業に精通している

- ① 大賛成。なぜなら植林には未来があるから
- ② 農業（主に米やフルーツ）、植林グループ
- ③ はい。ずっといたい
- ④ 健康的で、安全、安心なよりよい生活



ジョップヤン

6人目：ジョップヤンさん

- ① 植林は大賛成。ただ、苗が成長しなかった場合のことを考えると怖い部分もある
- ② 植林グループ、手工芸品、時々農作業や釣り
- ③ 絶対にここに住み続けたい
- ④ お金持ちになりたい。そして、より健康的で安定した幸せな生活がほしい



ルースタム

7人目：ルースタムさん— 村の事務仕事担当

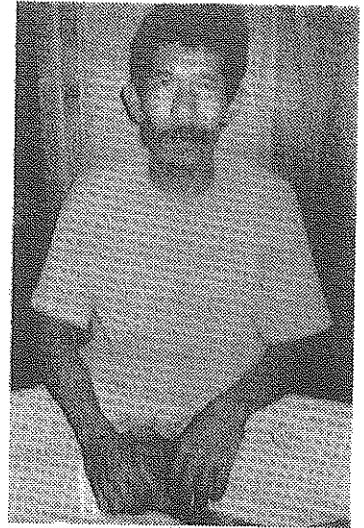
- ① 苗が育たなかった時のことを考えると不安だが、それよりも植林のもつ大きな可能性を信じている
- ② 自分のボートをもっているなので、それをつかったエコツーリズム、植林グループ、政府から少し給料をもらっている
- ③ はい。もちろん
- ④ 村の発展



スピオ

8人目：スピオさん—奥さんは村長（★この村は女性が村長）

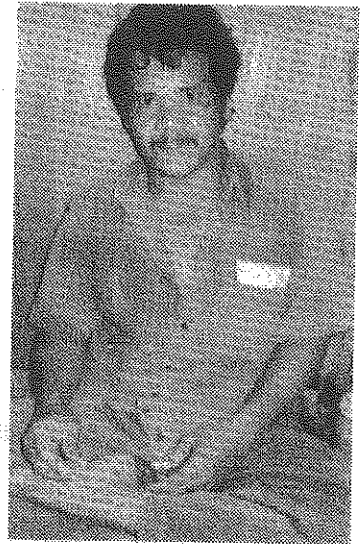
- ① 植林は大賛成だが、火事や集中豪雨が怖い
- ② 農業
- ③ 村の生活は幸せだからずっと住んでいたい
- ④ 平和で穏やかな生活と村の発展



スカリ

9人目：スカリさん—ジャワ島出身

- ① 失敗した時を考えると怖いですが、植林を通して、村人全体が、物事により注意深く慎重に取り組むことの大切さを学べるので大賛成
- ② 農業、村の便利屋さん（ちょっとした手伝いから家の修理、農作業と何から何までひきうけるなんでも屋さん）
- ③ はい。ここは幸せです
- ④ 村の人たちみんなにとってよりよい、幸せな生活、フレンドシップ



ハットマト

10人目：ハットマト— 村の会計担当

- ① 植林は賛成。森をきれいにし、再生するから
- ② 村の仕事(会計)をし、給料をもらっている。奥さんと一緒に農業（主に野菜）、植林グループなど
- ③ はい
- ④ 村の人々のよりよい生活。タンジュンパティン・ナショナル・パークの持続性

突然の質問に、村の人たちがどこまで協力してくれるだろうかと心配だったが、バスキの通訳をたよりに植林グループのうちの10人のメンバーに質問することができた。村の人たちはとてもシャイで、最初のうちは照れながらもじもじとインタビューに答える様子がうかがえたが、だんだん質問内容がわかってくると、自分の順番をまちきれずに、答えている人の横に来て一緒にインタビューに参加してくれたり、さっき言い忘れたことがあるからといって自分の回答に自主的に意見を付け加えてくれたりと、率先して参加してくれてとても嬉しかった。

インタビュー後の私の印象としては、みな植林の意味や重要性、リスクをきちんと理解して取り組んでいるということだ。

「正直にいうと、最初は植林という考え自体を理解することができず戸惑っていたが、今は植林の可能性を信じている。」という意見が大半だった。

皆の収入源に関しては、農作業や村の事務、大工仕事などが主で、植林による収入も少なくはない。ジャワ島から来た「村のなんでも屋さん」のスカリさんや、自分のボートを使ってエコツーリズムをするルースタムさんなど、意外な仕事の話も興味深かった。

3番目の「村にずっと住みたいですか？」という質問には、10人全員が即答で「もちろん！」と元気に答えてくれた。村にいたいというのは、町に出て行くことへの不安や恐怖感からというよりも、「ここの暮らしは幸せで、村民みんなが家族だし、温かいんだよ。」という答えが返ってきた。

最後の「何が一番ほしいか」という質問には、ほとんどが「よりよい生活」という。具体的には何かときくと、

「今の生活が苦しいというわけではない。村の生活は幸せだが、火事や豪雨などの災害に恐怖を感じたりしない方がいいような、という意味での安心や安全面でのよりよい生活なんだ。」という意見だった。みな、口をそろえて「村人全体の」幸せを強調していた。お金持ちになりたいと答えた人も、「そのお金で村に不足している物資を買いそろえみんなが幸せになれば嬉しい。」と答えていた。

質問を終え、部屋の外に出ると、英語が話せる男性がいたので色々ときいてみた。彼はスニョトさんといって、週に2回、村人に農業を指導しに来ているインターナショナルNGOのメンバーだそうだ。ちょうどこの村に来て9ヶ月がたったところで、近々家族のいるジャワ島に一度戻り、すこし休息をとったあと、すぐカリマンタンに戻ってくるという話だった。

通訳のバスキとスニョトさんの話を総合すると、村の人は、農業の専門的な知識があまりなく、同じ作物を長期にわたって作るという発想がないのだそうだ。農作業はするが、米の次はフルーツ、その次は野菜というふうにどんどんと内容が変化する。農業の知識をつけることでより豊かな生活に繋がると考えるバスキは、外部から専門家のスニョトさんを招き、村の人が農業を基礎から学べるように機会を設けている。

手元の時計をみると、すでに夜10時半を過ぎていた。

スニョトさんは、「村の人たちはたいてい朝5時ごろ起きて、夜9時には寝るんだ。それなのに11時近くになっても誰一人帰らずに集まっているなんて、よっぽど君達を歓迎しているんだね。」と笑っていた。

【国連、25年間で生物種3/1減少で、危機を公表】

5月10日、世界同時発表の国連による地球規模生物多様性概況第3版(GBO-3)では、いくつかの生態系が人類にとって有益でなくなる「転機」が間もなく訪れると予測。この「転機」に、急速な森林の死滅、藻類の水系占領、サンゴ礁の大量死滅などが挙げられている。全世界の脊椎動物(哺乳類、爬虫類、鳥類、両生類、魚類)の数は1970~2006年の間に3/1ずつ減少している。COP10議長国として政府は、名古屋で10月に開催の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に向け、生物が危機的状況に陥っているインドネシア、カリブ海、アフリカ南東部、地中海沿岸の地域(ホットスポット)緊急対策のため250万ドル(約23億円)拠出を決めた。(BBC、東京新聞)

【FAO、2000—2010年森林消失はやや減少と発表】

国連食糧農業機関(FAO)は3月25日、FAOが世界の森林資源を纏めた「2010年世界森林資源評価」の内容を発表。主に熱帯林の農地へ転用の森林消失は10年間で減少したが、多くの国で依然と憂慮する状況が続くと。1990年代に森林減少率が最大のブラジル、インドネシアはかなり減少。中国、米国、ベトナム等の植林事業と、一部の森林の自然増で、年間700万ha以上増加。結果、2000—2010年の森林消失面積は年間520万haと、1990年代の年間830万haより減少。が、南アメリカとアフリカで森林消失が大きい。違法伐採が減少したが火災、旱魃の影響等で今後の対応が必要と。

(資料:FAO、4/1温暖化新聞)

【ブラジル環境担当者、違法伐採容認で逮捕】

ブラジルのアマゾン森林を保護すべき立場のマト・グロッソ(Mato Grosso)の環境担当の政府職員が、保護地区の森林を伐採する許可を出した事で逮捕。伐採業者・土地所有者・森林管理者等を含め約70名が告訴と。伐採で約5億ドル被害。

(資料:BBC)

【インドネシア大統領、森林伐採2年間凍結の宣言】

ジャカルタポスト、BBC、CNN等報道で、5月27日インドネシア・ユドヨノ大統領は、ノルウェーからの10億ドルの援助と引き換えに、2年間、熱帯雨林の伐採を停止すると声明。インドネシアは、泥炭湿地やその他の熱帯林の伐採を2年間モラトリアム(一時停止)すると。WetlandsInter、GreenPeace、WALHI(FoE Indonesia)、Telapak等は歓迎表明。気候変動会議参加のユドヨノ大統領はノルウェー首相との二国間会合を実施。5月26日会議で、温室効果ガス減少へインドネシアとノルウェーとの森林劣化の共同削減を署名。ノルウェー首相は「ノルウェーは10億ドルをインドネシアの努力へ支援約束。この貢献は、森林伐採を減らすことに基づく」と。(BBC他)

【豪州、インドネシアの森林保全・温暖化へ協力】

オーストラリアは3月2日、3000万豪ドルを投じて森林分野でのCO2対策プロジェクトを発表。温暖効果ガス削減に向けた対策や、炭素吸収源取引の実施に向けた取組みをスマトラ島で新プロジェクトを進めると。深刻な森林減少のスマトラ島ジャンビ州を対象で、地域住民が森林を保持し森林を保全の方法の2国間の協力計画。豪州はインドネシア等へ森林を保全・拡大の開発途上国に莫大な資金を供給と、国連へ提案。(ロイター等)

【APRIL社、森林破壊でFSC材の認証剥奪さる!】

森林管理協議会(FSC)は大手製紙APP社に続きAsiaPaperResourcesInternationallimited(APRIL社)のアカシア農園の管理材規格基準認証を取り消した。理由は泥炭地を含む「保護価値の高い森林破壊と、地域住民との対立」によると認証機関のSmartwoodにより行われた。フィンランド大手製紙UPM Kymmene社がAPRIL社との契約を破棄で、オフィスデポ、ティファニー、グッチ等の大手企業がAPRIL社と取引停止し、APRILは3億\$の損失と。(4/18日RAN: http://cms.ran.org/media_center/)

【Titian、当会へサラワク州密輸材大半不可と報告】

当会から Yayasan Titian に密輸材調査依頼で、同会の5月調査でサラワク州セマタン (Sematan)、ピアワクの州政府管理下の Harwood (ハーウッド) 社にインドネシア材を運ばず、事務所を閉鎖。最大の密輸ルートが完全に昨年 8 月から停止!! NGOs と「ボルネオ島の密輸材停止」へ進む。(海外へ情報発信)

【インドネシア、アブラヤシ農園を森林と区分せず】

インドネシア林業省は、森林破壊を促進と NGOs の強い抗議を受け、「バーアブラヤシ農園を森林として土地分類する」と議論の決着権を放棄。発表は同省の研究・開発部長 Tachrir Fathoni 氏がセミナーで。WALHI (FoE Indonesia) 森林保全ディレクター Surya 氏は「決断は良い。次は産業用造林地(HTI)を森と区分しない事」と。(4/14 ジャカルタポスト)

【米国5団体、インドネシアの違法材停止要望】

米国の熱帯雨林アクション・ネットワーク(RAN)、シエラクラブ、BlueGreen Alliance、米国自然資源防衛協議会、米国鉄鋼労連(USW)は、労働組合の5団体は、米国の雇用と産業を保護にインドネシアから違法木材の輸出停止への貿易制裁の実施を要求。違法な森林破壊が及ぼす経済・社会・環境面でのコストを調査報告書を公表。5月27日ユドヨノ大統領は2年間の伐採停止!えらい!(5/5 Carbon Positive)

【GreenPeace(GP)もキットカット大好き行動で成果!】

GP等のキャンペーンで、ネスレ本社はシナル・マス社(Sinar Mas - 製紙APP社も)と契約破棄の予定と発表。ネスレは別企業を經由しSinar Mas社のパーム油を購入? GPピースは「ネスレ・グループがキットカットファンの声に応えてくれるはず!」と。(GPのHP)

【ガボン、1月から丸太輸出禁止へ】

ガボン政府は1月からの丸太の輸出禁止を決定。EU とアフリカ熱帯材輸出国との貿易協定によるもので、EU はアフリカ各国へ呼びかけ。(資料:ITTO 等)

サラワク密輸困難で「ボルネオ密輸材停止宣言」へ
2010年3月—6月(2)

By Nishioka

【マダガスカル、ローズウッド等違法伐採続く】

マダガスカルで違法伐採されたローズウッドの積込み中止をフランス海運業大手デルマス社に要請。積込中止呼びかけは、EIA と Global Witness。3月、マダガスカル政府は紫檀(rosewood)等の木材・木材製品全ての輸出を2~5年間禁止する法案を発表。国立公園で違法伐採が続く。(3/15,4/4Mongabay)

【ペルー、マホガニー材の密輸継続で、制裁?】

ペルーはワシントン条約(CITES)保護種マホガニー類の違法貿易が依然横行の現状の改善に関し、6ヶ月間の猶予を与えられた。同国は6ヶ月以内にマホガニー貿易規制のため法整備、コンピュータベースのトラッキングシステム(追跡調査計画)や現取引量の照合システムを再確認に迫られる。達成できない場合、CITES 常任理事各国はペルーからのマホガニー禁輸を決定すると見られる。(3月14日 WWF)

【サラワク、先住民の土地利用を警察等で弾圧】

4月発表の JOANGO Hutan(マレーシア地域住民 NGO Network)は、土地利用を州政府認めずと。報告によると、サラワク州で裁判中の土地問題は現在140件で、いずれも先住民たちとパーム農園企業、製紙企業と抗争している。サラワク州政府は、先住民側が勝訴したケースも判決を無視する。4月に、裁判中の先住民の家をブルドーザーで破壊。Baru Bian 氏がサラワク州首相へ立候補か? 生命危しい!
(資料:BMF、B Bian 弁護士)

【サラワク先住民プナン人、木材企業の重機撤去】

先住民プナン人は、2つの伐採用道路でマレーシア大手サムリン(Samling)社の重機をサラワク州アカ川上流ロング・サバイ(Long Sabai)地区とバケ・ラマウ(Ba Kerameu)地区から撤退に成功。両地域は2009年プナン人設立の Penan Peace Park 自然保護区の一部であり、Samling 社がインドネシア国境バジャウ(BaJawi)区で伐採を止めるためと。

(資料:4/25 BMF ブルーノ・マンサ・ファン)

みんなの地球

消える森林



中カマンタの烽煙

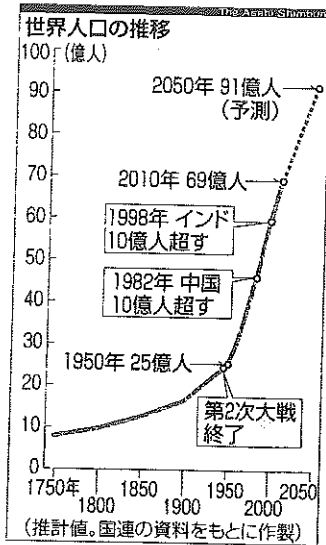
人工衛星からも見える煙。インドネシアでは、毎年のように野焼きによる大規模火災が繰り返されている。カリマンタン島では3年前、黒く焦げた木々が数百四方にわたって横たわるなか、住民が耕作作業を進めていた。ブラジルでも、アマゾンの熱帯雨林が牧草地や大豆畑に変えてきた。30年で日本の約2倍の面積の森林が失われたという。大豆の生産量は大きく伸び、中国や日本に輸出されている。

焼き畑は、自然と共存してきた伝統的な農法のはずだった。しかし、今は目的が異なる。生産性を上げようと、森林をわざと焼き払って農地に変えている。開発の圧力は、自然の回復力をはるかに上回る。

北極に近いシベリアやアラスカでも、森林減少が続いている。雷などによる自然発火やたばこの火の不始末が原因だ。ほかにも、それまではみられなかった害虫にむしばまれて、大量に枯れている地域もある。

世界の森林は、陸地の3割を占める。今年3月に国連食糧農業機関(FAO)は、2000年代に世界の森林が年5.20万haの割合で減少した、と公表した。九州の面積よりも大きな面積が毎年失われているのだ。南米やアフリカで消失が目立つ。

膨らむ人口



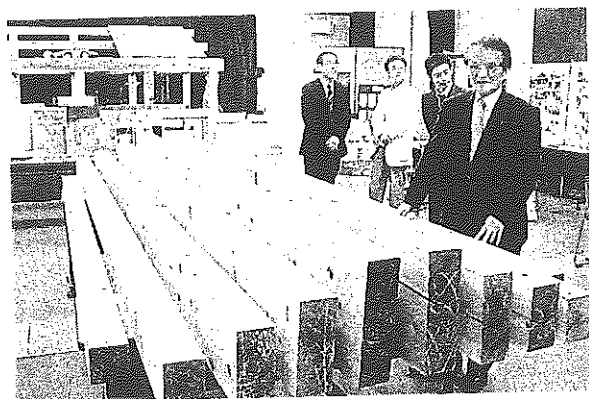
環境破壊が急激に進むのは、世界の人々により豊かな生活を求めているからだ。長い年月をかけて自然が培った石油や石炭などの化石燃料をエネルギー源として使う。鉱石は工業製品に欠かせない。食糧や木材も多様な生き物たちが生み出す。私たちは地球の恵みで生きているが、限界が見え始めた。地球は46億年前に誕生した。その数億年後に生命が芽生え、多様な進化を遂げた。人類誕生はわずか数百万年前。この1000年程度で爆発的に増え、50年前に30億人だった世界人口はいまや70億人に迫り、2050年には91億人に達するという。

大正時代に5千万人台だった日本の人口も1億2千万人に達している。エネルギー消費

は1965年の4倍近い。家庭には電化製品があふれ、物資の輸送や工場など様々な過程でエネルギーが使われる。こうした大量生産、大量消費の人間活動は地球規模でも影響を与えている。

産業革命以降、化石燃料の利用で二酸化炭素(CO₂)の排出が大幅に増えた。国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は07年、近年の地球温暖化のほとんどが、CO₂などが出した温室効果ガスの増加による可能性が「非常に高い」と指摘した。温暖化が進むと、海面上昇、水不足や洪水、生態系の変化や農業への影響などが懸念される。日本がたどってきた道を、中国やインドなどははるかに上回る人口規模で追い続けている。国際エネルギー機関(IEA)の見通しでは、世界のエネルギー需要は2030年に07年の1.4倍になるといふ。人口が集中する都市には車があふれ、排ガスが漂う。廃棄物の処理も課題だ。

世界自然保護基金(WWF)の計算によると、世界中の人が日本人と同水準の生活をすれば地球が2.3個いる。米国と同じ水準なら地球は4.5個も必要になるといふ。



国産材 品質表示と適正価格

新技術のSSDで乾燥させた国産無垢材を「長期優良住宅」に生かす「SSDプロジェクト」が動き出した。1本ずつ品質を保証し、産地からユーザーまで「気通貫」で材を適正価格で供給するルー트를確保。プロジェクトを進める建材商社の紅中、ものづくり伊東設計工房（共に大阪市）などは今月、大阪府内でユーザー向けの「SSDの家建築相談会」II写真IIを開き、多くの入場者を集めた。

国の長期優良住宅モデル事業に採択 工費に補助金も

SSDは、100度以上のスチームなどに材をさらす従来型の乾燥法ではなく、80度前後の「中温域」で燻煙熱処理する木材乾燥の新技術。比較的低い温度で処理するため、材の細胞破壊が起こらず、煙による材の硬化現象が見込めるのが強みだ。また、今回の材は熊本県湯前町などの「球磨杉・球磨檜」で、加工材1本ごとに強度と含水率が表示されていくのも特徴。

一方、原木を調達する九州横井林業と湯前木材事業協同組合、原木を製材・乾燥する同組合、仕上げ加工などを担当する球磨プレカットなどの産地、湯前から宮崎県日向港への陸送、さらに大阪・泉佐野港に船で運んで紅中が販売。つまり生産、流通、運搬、販売までの過程の「履歴」（トレーサビリティ）が明確な点を持ち味ともいえる。

日本は森林資源は豊かだが、木材需要の多くを輸入に頼り、人工林の多くは放置状態に近い。プロジェクトのメンバーによると、SSDを軸にした国産無垢材の生産・流通を一貫工程化させることで、国産材が建築に敬遠された原因（非

効率で割高な流通コスト、品質の不統一など）が克服できるという。

プロジェクトが動き出す契機となったのは、国土交通省が進める「長期優良住宅先導的モデル事業」の公募に参加し、内容が認められ採択されたこと。モデル事業は工事費の10%以内または上限200万円の補助金などが見込めるという。

問い合わせは06・6568・0118（9～16時、土日祝以外）。HPは「SSDプロジェクト」で検索を。

暮らしっく

開発と環境 CO₂削減 偏重に危うさ

東京大教授
(森林社会学・ガバナンス論)



井上 真 いのうえ まこと

二酸化炭素(CO₂)の排出を減らし、生物多様性を保ち、持続可能な地域発展を実現するにはどうすべきか。世界の41%と最大のアブラヤシ農園を有するインドネシアの開発問題から学ぶことは多い。

アブラヤシの果実からは、食用油、マーガリンやショートニングの材料、洗剤やシャンプーなどの原料として私たちの生活に入り込んでいるパーム油が採れる。最近はいオティールセルの燃料としても注目されるようになった。

パーム油の単位面積あたり油脂生産量は菜種油や大豆油の3〜10倍。生産効率が高く大量生産に適している。悪玉コレステロールを増加させるトランス脂肪酸が少ない点も魅力である。

植物はCO₂を吸収して成長する。だからパーム油を燃料にして燃やしたとしても、アブラヤシ農園の持続可能な管理がなされていれば、排出されるCO₂を再びアブラヤシが吸収してくれる。CO₂の収支が釣り合うというわけだ。

欧州連合(EU)は2020年までに輸送用燃料へのバイオ燃料混合割合を10%に高めることを目標にしている。欠かせないのがバイオディーゼルの活用だ。政策執行機関である欧州委員会の作成した文書案が今年2月にリリースされた。

問題となったのは、アブラヤシ農園を森林と見なす点だ。これにより、熱帯林を伐

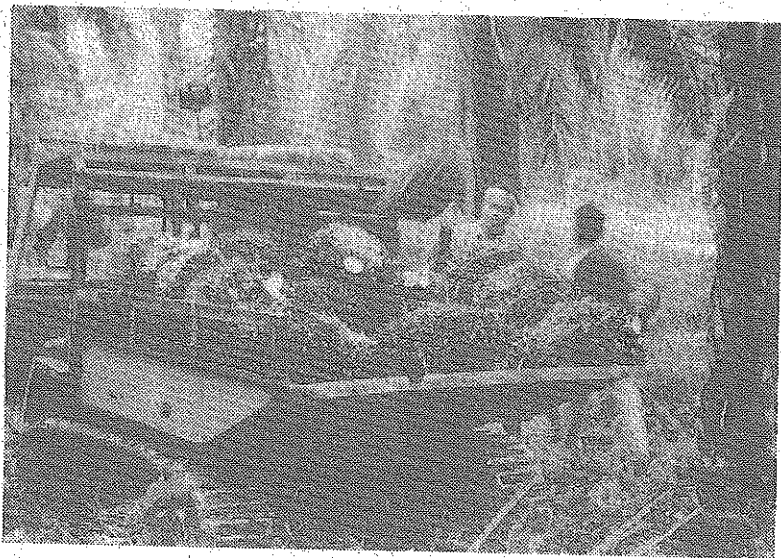
採・火入れして農園を造成しても森林減少と見なされなくなり、開発が一気に進む。「樹冠による土地の被覆率が10〜30%以上」など森林の国際的定義を満たさなければ、CO₂削減やビジネスの観点から一定の合理性をもつことはたしかだ。

しかし、森林が私たちに提供する生態系サービスは、先住民の知恵に基づく利用や生物多様性の保全など極めて多様である。お金が動く一面的な価値(CO₂)だけを突出させると将来に禍根を残す。

環境NGOの抗議を受け、インドネシアは、アブラヤシ農園を森林に区分する検討を中止することを4月に発表した。それでもなお、ボルネオ奥地でマレーシア国境沿いに世界最大規模(200万ha)のアブラヤシ農園を開発する計画の行方が気になる。先住民による焼き畑農業の休閑林が、農園開発の対象地(「放棄地」とみなされる可能性を否定できない)からだ。

アブラヤシ特有の問題もある。果実収穫後24時間以内に搾油しないと油脂の品質が低下してしまう。だから、農民所有の農園であっても買いたたかれてしまい、自立が難しい。大量の除草剤や殺虫剤による健康被害や土壌汚染も心配だ。一方で、利益を受ける農民の存在も無視できない。

CO₂偏重の陰で何が失われ、誰にどんな利害が生じるのか。複眼的な思考に基づいて冷静に検討していきたい。



▲トラクターに積み込まれるアブラヤシの実

HUTAN ACTION SCHEDULE



《会費、カンパを頂いた方々》(2010年4月3日~2010年6月8日)

(敬称略)

石崎雄一郎 太田敏一 大東弘 久世濃子 汐見文隆 住田好江 地球の友金沢 浪川光代
畑章夫 平井英司 H.F. 藤原江美子 水田哲生 村上未恵 湯川れい子 吉田千里
蓮原耕児 (ありがとうございました)

《おたよりから》(敬称略)

☆ウータンからの通信は、熱帯林のことを思い出させる紙つぶてのようなもの。活動の継続に
敬服しています。 5/29 (畑章夫)

☆ウータンの内容、このところむつかしく思います。もっとわかりやすくしてほしいです。
5/20 (吉田千里)

INFORMATION

今号、予定ありません。

P.S. いよいよ夏本番です。皆さんお体には

十分気を付けて乗りきってください。

(ウータン一同)



ウータン・森と生活を考える会



[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

(HP www.hutang.org/ / (mail) fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp)

【一部】300円 【年会費】14000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。